



清水小学校_令和7年度第5回学運協議事録

日時/場所

[2025年9月5日 19時00分～21時00分] / [清水小 応接室]

出席者

[荒井雄一、新庄良輔、須藤美樹、茂木栄、関谷健司、野島恵子、斎藤聖子、下谷晴一郎、露木逸人]

欠席者

[酒井章]

実施事項

○学校運営協議会新任委員研修動画「地域で育てる八王子の子ども学校運営協議会って？」（約45分）
を出席した委員で視聴。

・以下、委員からの感想。

「教育にかかわる事が大切と認識」「実践しないと実態がわからない」

「教育施設管理者と保護者の関り、保護者同士の関りが希薄」「保護者の顔が見える活動を望む」

「地域・保護者・学校が連携して地域を作っていくという協働意識が難しい。どのように協働活動ができるか、どのような協働活動ならできるのか課題」

「積極的な活動をするために足りないものを考えていきたい」

「中学校で出来る事と小学校で出来る事の違いがある」

「保護者の意識として、我が子に対する意識と、（我が子を含む）地域の子に対する意識に乖離があるようだ」

「学校関係者として気づいたこと、見えてきたことを地域に広めたい」

「行事等での保護者の積極性がないのか？と思っていたが、ふれあいランチに参加してみたところ、そんな事もなかった。地域からも教育的協働活動へ積極的参加を促したい」

「“子どもと一緒に”という活動になるよう意識づけた活動を保育園の役割としたい。保育園の職員も地域のことに関心を持つように促す。」

「地域に開かれた学校（＝地域運営学校）」を伝えるには、「子どもを見ましょう」という意味を込めて伝えたい」

「開かれた教育課程」から「開かれた学校」へ、そこには「子どもを見て欲しい」という思いがある。学運協で協議し、協働活動を重ねていくうえで、自分の子どもだけではなく、他の子どもを見ていく事ができてきたのではないか。一定の成果は上がっている。一方で、学校の困りごとをどれだけ地域に話せているか。学運協で協議ができる事を改めて踏まえ、子どもたちにとってより良くしていくためにはどうした良いか、引き続き課題意識をもって取り組んでいきたい。

「学運協の取り組み事例」を様々な媒体で調べ、団体から聞くことができる。「学運協はどこかの学校をまねて“これ”をすればよい」という事ではなく、協議会の根底には「この地域の教育をど

うしたいか、子どもたちにどう育ってほしいか」 委員一人一人がその想いを持って協議会に参加する事が重要。 様々な視点があり、活発な意見が出る事が肝要なので、「子どもを想う事」だけでなく、「教育内容について」「教育施設について」「学校を核とした地域について」など多様な点に注目して相乗効果につながる事に期待したい。

協議/決議事項

○協働活動に関する困りごと

PTCA や放課後子ども教室推進委員会を基盤として活動しているが、責任の所在がない者の自己判断による行動に運営本部が苦慮している。

- ・施設利用や案内書面の配布掲示等について、責任者からの承諾を得ることなく履行している状況が散見。

→組織活動である以上は、管理者や責任者の承諾ない活動は容認できず、承諾を得るよう実行者へ注意喚起する。

○学童祭り（10月4日(土)午後～）

- ・体育館使用イベント。準備等にせわしなくなる為、参加希望児童には「自宅で昼食をとった後、再登校での参加とする」と案内にする。

恒例の「ふれあいランチ」は実施しない事とする。

情報連携

無し

お知らせ

次回学運協は10月4日(土) 12:00～を予定していたが、学童祭り実施と会長の欠席が濃厚であるため、実施日時は改めて委員に伝達とする。

書記 中島副校長
編集 新庄良輔

承認日 2025年9月15日(月)